

2009年(平成21)1月

カルメル
靈性センターニュース



ラファエル サン・シストの聖母

239号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——

第一巻

第9章 従順と服従

1 従順は安全

目上に従って生活し、自分の思いのままに動かないことは、真に益のあることである。ほかの人のもとについていることは、自分が支配することよりも安全である。ほとんどの人は、愛のためというよりも、やむを得ず人に従っている。このような人々は、服従を重荷に感じて不平をこぼしがちである。彼らが心から神への愛のために服従しないなら、心の自由は得られないであろう。あなたは、あちこちに移っても、目上への謙虚な服従のうちにしか平和を見いだせないであろう。多くの方はよりよいところを見つけようと思って場所を変え、見事に裏切られているのである。

2 他人の意見を聞く

人は自分の考えに従う。そして、自分と同じように考える人のほうに傾くものである。しかし、神が私たちと共におられるならば（マタイ 18・20、ローマ 8・10 参照）、平和を保つためにときどき自分の意見を捨てなければならない。すべてを完全に知り尽くすほどの知恵者がどこにいるであろうか？あなたは、自分の意見に信用を置かず、他人の意見を喜んで聞きなさい（箴言 12・15 参照）。あなたの意見のほうがよくても、それを神のために捨てて、他人の意見に従うならば、あなたはそれだけの靈的效果を受けるであろう。他人の勧めを受けるのは、他人に勧めを与えるよりも安全だとよく耳にする。自分の意見も他人のと同じようによい場合がある。しかし道理と理由があるのに他人の意見に従わないのは、傲慢と強情のしるしである。

心の泉



聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

- 1 -

大切なことは

立ち止らず

つねに 神に向かって

歩み続けること——

聖霊を友に



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

新しい年が始まります。今年も一人ひとりにとって「よい年」となりますように・・・。何をしようと、どんな状況にしようと置かれようと、マリー・エウジェンヌ神父のいう基本的姿勢を常に保つことができますように。それこそが「よい年、よい一日」なのではないでしょうか。

わたしたちが活動的な人であろうと、観想的な人であろうと、生きる基本的姿勢は、神を目指し、神に向かって歩むことです。

この基本的姿勢をもって神に向かうには、希望という翼が必要です。毎年「渡り鳥」がやってくると「本当によくここまで飛んできたのね」と感心します。

わたしたちにとって希望は、鳥にとっての翼。希望こそが神へ向かってわたしたちを歩ませてくれます。渡り鳥は果てしない海を飛び越えて移動しますが、アヒルはせいぜい池の周辺です。大海を渡らなければならぬ鳥は強い翼をもっており、一日中でも飛び続けることができます。わたしたちも大きな希望をもつならしっかりした翼で遠距離を飛ぶ鳥のようです。しかし、たびたびわたしたちはガアガア鳴きながら池で羽をばたばたさせる小さなアヒルかもしれません。

2009年を「よい年」とするために、大きな希望をもって神に向かって歩み続けたいものです。神の慈しみに希望を置く強い翼をもって。

わたしたちは神の子なので、父なる神は愛のまなざしをわたしたちに注いでくださいます。わたしたちの弱さや心理的状况とは無関係に、神の愛のまなざしはわたしたちを常につつんでくださいます。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(42)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

味覚について論じている時に、水を十分飲むことについて考えることは、不適切ではないかもしれませんが。しばしば、私たちは祈る時、一種のストレスや憂鬱を感じます。ストレスは、私たちの応答や変化を求める何らかの感情的、身体的、社会的等々の要因に対して使われる言葉です。無味乾燥も一種のストレスで、このストレスは、ストレスに対処するために身体的エネルギーを集中します。その結果、身体的な水分のエネルギーも消費されてしまいます。こうして無味乾燥は、ストレスを生み、ストレスは逆に、さらなる無味乾燥を引き起こします。鬱は、情緒の異常な状態——それは過度の悲しみや落胆や無力感や虚無感や絶望などの感情を引き起こし、そのため祈りの時に乾燥や味気なさを生み出します——を表すために使われる用語です。これらの感情はよいものではなく、現実との正しい関係がくずれているのです。脳の中に十分水分がないと、ストレスや鬱が促進されます。脳は、脳の中にある水分から電気的エネルギーを生み出します。脳内の水分が減少すると、電気的エネルギーの生産が不十分なものとなります。こうしてこのタイプのエネルギーに依存している脳の機能は、非能率的なものとなります。脳の普通の機能がこのことによって影響されると、鬱が始まります。水を飲むことは、体のすべての器官をリラックスさせ、その機能をスムーズなものとしめます。なぜなら、水を飲むことは、人間の有機体全体を活性化するからです。それは、健康に大いに貢献し、結局、健全な霊的生活へと導くのです。一日の間に水分を十分に取ることは、祈りの間のはなはだしい鬱やストレスを軽減するのに役立つのです。

ところで、私たちは味覚を食べ物や飲み物にのみ限定すべきではないでしょう。私たちは、気持ちの良い日ざしや、一陣の激しい風や雨、冷水や温水のお風呂、心地よい場所、庭、深緑の牧場、楽しい散歩、安らかな睡眠などなどを、味わうことができます。これらすべての毎日の行動や活動は、味わうために存在するのです。私たちは、神から与えられたこれらのさまざまな状況を通して、自然的な観想体験へと入ってゆくことができるのです。そのような傾向は、祈りのためにとてもよい準備となります。いつも祈る人は、祈りの時間以上によく祈ることでしょう。

私たちは、与えられた状況で何らかのものに対して皆が同じような味覚を持つことではないということも、理解する必要があります。或る人の食べ物は、他の人には毒となり得ます。私たちの味覚は、生まれ育った文化や家族や過去の体験によって異なっているのです。「二人の人が刑務所の鉄格子から外を眺めていました。一人は泥を見、もう一人は星を見ました」。同じ対象は、同一の感情を引き起こさないかもしれず、二人の人間の違いを知ることになるのです。

味覚は、神から与えられた恵みで、私たちが祈りへと導き、神へと高めてくれるのです。「味わい、見よ、主の恵み深さを」(詩34:9)と、詩篇作者は言っています。これは、私たちの感覚を通して、その快感に執着することなく、全被造物を味わうようにとの、私たちの全能力への招きです。

けれども舌は、単に味わうためばかりでなく、交わるためにもあります。この点で、誠実さは、おそらく、真実の祈りにもっとも欠くことのできない重要な性質です。それは、神への私たちの信仰、希望、愛をためす唯一有効な方法です。私たちの黙想がどんなに深いものであろうと、私たちの苦行がどんなに厳しいものであろうと、私たちの典礼がどんなに荘厳であらうと、私たちの考えがどんなに純粹で、私たちの意図がどんなに崇高であらうと、私たちが舌で言っていることを実際に行おうとしないならば、それらはすべて無益です。昔の預言者によって言われ、キリストご自身も取り上げられた呪いの言葉、すなわち「この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている」(マタ15:8)が、私たちにふりかかってくることは、どんなにありがたいことでしょうか。聖ヤコブは深い考えを表しました。「しかし、舌を制御できる人は一人もいません。舌は、疲れを知らない悪で、死をもたらす毒に満ちています。わたしたちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪います。同じ口から賛美と呪いが出て来るのです」(ヤコ3:8-10)。

味覚と舌の感覚の霊化

良い食べ物とバランスのとれた食品は、私たちの身体と心を養ってくれます。過食は、何らかの病気や体の不調をもたらします。味覚の奴隷とならないよう注意する必要があります。私たちの腹が、私たちの神とならないようにすべきです。私たちが食べる食べ物は、神に嘉され、神を賛美するためにあるべきなのです。(続く)

(九里 彰訳)

ヘンリ・ナーウェンの

旅路の糧 (117)



受け取ることの大切さ

受け取ることは、しばしば与えることより難しいことです。与えることはとても大切です。アイデアを与えること、希望を与えること、勇気を与えること、助言を与えること、励ましを与えること、お金を与えること、そして何よりも、自分自身を与えること。与えることなしには、兄弟や姉妹となることはできません。

けれども、受け取ることは、同じように大切です。なぜなら、受け取ることによって、何かを与えてくれた人に、彼らが贈るべきものを持っていたことを、伝えることになるからです。私たちが、「ありがとう、希望を与えてくれて」とか、「ありがとう、生きる意味を与えてくれて」とか、「ありがとう、私の夢を実現させてくれて」とか言う時、その何かを与えてくれた人々が、私たちに独特で貴重な贈り物をしてくれたことに気づかせるのです。時々、何かを与えてくれた人が自分の贈り物に気づくのは、受け取った人の目くばせだけで十分なのです。

(0403)

赦しを受け取ること

赦しには二つの側面があります。赦しを与えることと受け取ることです。一見すると、赦しを与えることの方が難しいように思えますが、しばしば、私たちは十分に人からの赦しを受け取ることができなかつたために、人に赦しを与えることができなくなっているように思われます。ただ赦しを受け取った人間としてのみ、私たちは赦しを与える内的自由を見出すことができるのです。なぜ赦しを受け取ることが、そんなに難しいのでしょうか。それは、次のように言うことが、とても難しいからです。「あなたの赦しなしには、私は私たちの間に起こったことに対してずっと縛られたままなのです。あなただけが、私を自由にするができるのです」と。それは、私たちが誰かを傷つけたということを告白するだけでなく、私たちが他者に依存していることを認める謙遜をも必要としています。私たちが赦しを受け取った時のみ、私たちは赦しを与えることができるのです。

(0125)

九里 彰訳

御公現の祭日 マタイ 2, 1-12

「彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた」。

御公現、それは、目に見えない神の神秘と神の全世界への救いの計画が、人となった神のみことば、イエスにおいて人間たちに現された、この顕現を祝うのです。秘儀の開示の光によくしたのは、ユダヤ人たちではなく東方の占星術の学者たちでした。彼らは、不思議な星に導かれて、この生まれた方を拝みに来たのです。マリアの御子、幼子イエスに、神の顕現と神の救いの計画の開示を見たのです。

実は、「マタイによる福音」は、イエスの宣教生活と受難を中軸にし、イエスの誕生、幼年時代の記述(第1章、第2章)が序文のように、そして、イエスの復活、高揚の記述(第28章)が後文のように位置づけられており、両者が対応関係にあると想定できます。それで、幼子を拝みに来た博士たちに対応する姿を、十字架の死の後、復活の朝、イエスを葬った墓を見に行った婦人たちに見ることが許されるのではないのでしょうか。イエスの遺体を発見できなかったのですが、墓から立ち去る途中でイエスの方から姿を現され、「おはよう」と声をかけられた婦人たちです(参照マタイ 28, 9)。博士たちと婦人たちには共通する点が多くあります。異邦人の博士たちも、婦人たちも、当時のユダヤ人たちからは、神の祝福からは遠いものと思われた人々でした。博士たちも一度は輝く星を見失いますが、恵みのうちにもう一度発見します。婦人たちも、発見できて当然と思っていたイエスの遺体を見いだせませんでした、しかし、イエスの方からイニシアチブを取ってご自分を現してくださいました。神の本質と神の救いの計画を人間に開示するイエスは、人間の能力や努力によってではなく、神からの無償の恵みで顕現してくださるときにのみ、人間は気づき、知ることができるのです。そして、このイエスの生と死における神の顕現を前にする人間の取るべき態度は、礼拝です。博士たちは、「ひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた」。一方、婦人たちも「イエスの足を抱き、その前にひれ伏した」(マタイ 28, 9)、他の福音書では、婦人たちは、イエスに塗るための香料を携えているのです。御公現は、父である神が無償で始めてくださった、王であり、神である、しかし、人間の一人となられたイエスによって成就される人間の知恵を超越した救いを祝うのです。

ルカ渡辺幹夫

主の洗礼 (B)

(マルコ 1:7~11)

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」

全く罪の無いイエスが、どうしてヨハネから洗礼をお受けになったのでしょうか？ヨハネは人々に罪の赦しを得させるために、悔い改めの洗礼を宣べ伝えていたのです。(ルカ 3:3) イエスの、謙虚にヨハネに従われるお姿のなかに、わたしたちはイエスの血にまみれた十字架上の死の洗礼の前兆を感じます。イエスの洗礼は、苦しみを捧げる神の僕としての使命の受容であり始まりでした。イエスは罪びとの一人に数えられることを善しとなさいました。イエスは御父のみ旨に完全に従われました。大きな愛をもって罪の赦しに必要な死の洗礼を引き受けられたのです。あなたは神に心から信頼し従うことの喜びを経験したことがありますか？

イエスがヨルダン川の水の中から上がられると、御父はそこにいた人々に聞こえるように御子に対しての父の喜びを宣言なさいました。聖霊も下ってイエスを清めその日から始まる宣教活動に備えてくださいました。イエスはイエスを信じて集まった全ての人の心の拠り所となるでしょう。イエスの洗礼のときに天は開け、ヨルダン川の水はイエスと聖霊によって神聖なものとなり、新しい創造の始まりを告げ知らせます。

イエスが卑しい人間の姿で洗礼の恵みに浴された神秘に、どのように与ることができるでしょう？7世紀の司教、ナジアンズの聖グレゴリオは言っています。「洗礼によってキリストとともに上げられるために、キリストのうちに身を沈めましょう。キリストとともに上げられるために、キリストとともに身を低くしましょう。キリストとともに栄光を受けるために、キリストとともに上りましょう」と。あなたはあなたの生活の変化を見たくありませんか？そして主のみことばの効果的な道具になりたいとは思いませんか？イエスの謙虚さをよく見、調べて、あなたの心の中で聖霊に同じ謙虚さをお願いなさい。そうすれば、天はあなたにも同じように開くでしょう。主はいつも聖霊のうちに私たちを新しくし、宣教のために清めてくださいます。わたしたちは周りの人たちにたいして、「世の光」「地の塩」となるように召されています。主は主の愛と真理がわたしたちを通して輝き、人々が神の救いのメッセージの、優しさに満ちた思いを理解するよう望んでおられます。あなたの周りの人たちに、みことばの喜びを放つために聖霊で満たしてくださるようお願いなさい。

(Sr. Paulina)

「ヨハネは、二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、『見よ、神の子羊だ』と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った」(ヨハネ1, 35-37)。

教会が、年毎に、洗礼者ヨハネの証から始まりカナの婚宴での最初のしるしに至る「ヨハネによる福音」の個所の朗読をもって一年を始めるには理由があります。それは、教会が、この新しい年にも、「イエスを指し示された者」から、「イエスを指し示す者」、世界に、人々に「イエスを証しする者」に変えられて行く、この歩みを力強く続ける決意を今一度新たに表明したいからに他なりませんでしょう。無論、教会は、いつも、聖霊に保証され、イエスを間違いなく指し示す、この意味では完全なものです。しかし、教会は、聖パウロと共に、次のことも自覚しています。「わたしは、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。・・・なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、目標を目指してひたすら走ることです」(フィリピ 3, 12-15)。また、「自分のふところに罪人を抱いている教会は、聖であると同時に常に清められるべきものであり、悔い改めと刷新との努力を絶えず続ける」(教会憲章8)必要を自覚しているのです。むしろ、この自覚を生々と感じているからこそ、完全なもの、聖霊に生かされているものと言えるのではないでしょう。翻って、わたしたち自身の心の中には、この自覚が鋭く目覚めているのでしょうか。「イエスを指し示された者」から、兄弟、隣人、イエスをまだ知らない人たち、社会に「イエスを指し示す者」、「イエスを証しする者」に変えられて行くことへの望みが、燃えているのでしょうか。

イエスは、わたしたちにも「何を求めているのか」と問われます。そして、言われるでしょう。「来なさい。そうすれば分かる」。この招きに応え、弟子たちと共にわたしたちも「イエスのもとに泊まった」と言いたいものです。イエスを頭で、知識で通り一遍で理解するだけではなく、イエスと共に留まり、生きることで体験として分かることが大切です。体験が、たとえ不完全であり、本当に小さいものであっても、徐々に、イエスとの真実な出会いにわたしたちを導き、まことの証人に変えてくださるのです。この「みことばの響き」が、イエスと共に留まる機会となりますように。

ルカ 渡辺幹夫

年間 第3主日 (B)

「悔い改めて福音を信じなさい」 (マルコ1:14~20)

洗礼者ヨハネが彼の証しを終えるとすぐに、イエスはご自分の証しをガリラヤで開始されました。ヨハネの敵たちは彼を沈黙させようとしたが、福音を沈黙させることはできません。イエスは「時は満ち、神の国は近づいた」と説かれました。イエスはヨハネの悔い改めのメッセージを続け、伝えるためにご自分がやって来たよい知らせー福音を信じるように弟子たちを招かれます。

よい知らせを告げるにあたって、イエスは二つの要求、即ち悔い改めと信じることという二つの要求をされました。悔い改めは生活を変えること、心の変化、罪とその結果に対する後悔、罪への憎しみと将来にわたって罪を避けようとする堅い決心を要求します。罪とは本当は何であるかを見分ける恵みを主は与えてくださいます、罪とは主の愛と知恵を拒み、善であることや主の意志にそう行ないを拒否することです。主の恵みはゆるしをもたらし、主の愛から私たちを遠ざける全てのものを退けるように助けてくださいます。信じるとはイエスをすぐに受け入れ、神は私たちが恐れと罪の束縛から解き放つためにひとり子を送ってくださるほどに私たちが愛して下さっていることを認めることです。神は私たちをご自分に立ち帰らせるために、ご自分の息子の一身を十字架上で犠牲にされました。神は最初に私たちが愛し、私たちの生命を彼に明け渡すために愛のうちに私たちが招いておられます。あなたは福音が恐れと罪の束縛からあなたを自由にする力を持っていることを信じますか？

イエスが福音のメッセージを説いたとき、ほかの人達を弟子として従うように呼び、彼らに「人々を神の王国のために捕らえる」という使命を与えました。どのような種類の弟子を選んだのでしょうか？ それは魚の臭いのする漁師たちだったのです！最初の使徒たちの選びにおいて、私たちはイエスのやり方の特徴に気づきます。イエスはまさに普通の人々を選びました。彼らは知的職業に携わっている人ではなく、富も地位もない人たちでした。イエスはこれらの人たちを今現在どのような人であるかを選んだのではなく、イエスの指導と力のもとにどんな人になり得るかによって選びました。奉仕するように主が私たちが招かれたとき、私たちは差し出すものを何も持っていないと考えてはなりません。主は私たちのような普通の人たちが差し出すものをお取りになり、主の王国で偉大なもののためにお使いになります。神はご自分の栄光のためにあなた方を通して、あなた方の中で、働くことを望んでおられることを信じますか？ あなたはあなたのまわりにいる人たちに福音の喜びを証ししていますか、あなたの隣人、協働者、また親類の人たちのために、彼らが主イエス・キリストを知り、その愛の知識に成長することができるように祈っていますか？

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (21)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

風邪 (2)

そして、彼はとても注意深く愛をもって世話ししてくれたので、私たちは皆、二三日後、元気になっていました。彼はすべての人にやさしく接し、靈的な講話を私たちにしてくれました……」。

聖人の個人的な愛徳に加えて、バエサやイブロス等の人々の愛徳と寛大さを思い起こすべきでしょう。このことや他の多くの事柄の証人である聖母被昇天のマルティン修士は、どのようにしてこの風邪（インフルエンザ）の流行によってカルワリオ修道院にさらに9人の病人が生まれ、経済的余裕がないためにとっても困りぬいたことを物語ってくれています。「そうこうしていると、或る日、くだんの修道院に、頼むことも、また何らか手続きをふむこともなく、人々が34か35個のマットレスと大量の枕とシーツ、そしていくつかの寝巻を持ってきました」。またこれらのマットレスに休むばかりでなく、栄養をつけなければなりませんでしたが、「テレサと呼ばれた或る女性が、イブロスの隣人でした。人々は彼女を母テレサと呼んでいました。彼女は、誰にも何も頼まれなかったのですが、イブロスへ行きました。彼女は30羽の鶏を持って行き、病人のためにと、それらを門番に渡しました」。

親切なマルティン修士は、この時、聖人がどのように言ったかを述べて、この話を閉じています。すなわち、「起こったことのすべてを、つまり、たくさんのマットレスとシーツと枕と鶏と他の多くの贈り物を見ながら」、聖人はこう言ったとのこと。「私たちの主に絶えず信頼することが、どんなによいことか、あなた方は見ましたか」。

(続く)



…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) — その1

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく病気になる、胃疾患(現在では、アジソン病であったと考えられている)のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したもののの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを「Laudem Gloriam(栄光の賛美)」であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット

— 祈り —

おおマリアさま、あなたは、造られたものの中で、神の賜物を知り、そのひとかけらも失うことのなかったただ一人のお方。光そのものに見えるほど、純粹で輝きを放つ被造物でいらっしゃる。「正義の鑑」、あなたのご生涯は本当に単純で、神の中に全く沈められていらっしゃいましたから、ほんのわずかしか語られることはありません。あなたは、これらのことをすべて心におさめておられた「忠実なおとめ」でいらっしゃいます。とても慎ましく、神殿の中で神のうちに本当に隠れておられましたから、聖三位の満身に満ちた眼差しをご自身にお引き寄せになりました。「神は身分の低いこのはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と呼ぶでしょう。」

これほど愛らしく、自分自身の美しさにこれほど気がついていない被造物であるあなたに御父は身をおかがめになり、永遠なる父の御子のときが来た時、あなたを母としてお選びになりました。神のみ業のすべてをつかさどる愛の霊があなたを覆い、おお、おとめよ、あなたは、「フィアット」とおっしゃいました。「ご覧ください、わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」と。そして、すべての神秘の中でも最も偉大な神秘が成し遂げられたのです。みことばがあなたの胎にお降りになることによって、あなたは永遠に神のものとなりました。

(『信仰における天国』、10日目の黙想より)

栄光の賛美は、その靈魂の天国において、すでに永遠の仕事を始められています。彼女の歌は途切れることはありません。なぜなら、彼女の中にあるすべてのものに効果を及ぼす聖霊の働きのもとに彼女はいるからです。自然性の弱さのため、散心することなく神のうちにしっかりとどまっていることができないので、そのことをいつも意識しているわけではありませんが、彼女はいつも歌い、いつも礼拝しています。それは、神の栄光のために苦しむことによって、言わば、賛美と愛のうちに全く渡されてしまったからなのです。私たちの靈魂の天国において、汚れなき御母の愛の賛美となりましょう。いつの日にか、覆いが落ちて、私たちは永遠の宮廷に招き入れられることでしょう。この宮廷で、無限の愛の心とてらの中で歌いましょう。そして、「勝者に約束された新しい名」を神は私たちに与えてくださることでしょう。それはどのような名でしょうか。

LAUDEM GLORIAE (栄光の賛美)

(『信仰における天国』、10日目の黙想より)

* * * * *

この記事は、洗足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泉阜カルメル会訳・編)

不思議な出来ごと

それは今で言えば、専門学校のプロセスも間もなく終了して、3年間お世話になった聖心学院から間もなく巣立とう という頃に起こったことでした。当時学校には、それはそれは大きな聖堂があり、学校行事には、信者、未信者を問わず、全学生が出席する義務がありました。ところが、私はミッションスクールに入学していながら、学業履修にはあこがれても、キリスト教がどんな宗教で、少しは極めてみよう などという気持はサラサラありませんでした。シスター達は勿論、信者の友人達は、一体何を考え、どんな世界に住んでいるのだろう と、常に不可解なまなざしでしか、見ていませんでした。高校ならまだしも、専門学校を卒業すれば、結婚とか社会人として生きていかなければならないのに、自分自身はこのように生きていこう という理想はあっても、宗教とは全く無関係だったのです。そういえば、学生時代宗教が必修科目に組み込まれていても、時間中、内職ばかりしていて、真面目に耳を傾けたことありませんでした。イエス・キリストやマリア様がいなくても、私は全然関係なく、一人で生きていける と思っていたのですから。 そんな私に、不思議が起こったのです。卒業も間近に迫ったある日の下校時、友人と一緒に聖堂に礼拝に行きました。私の思いは、全く自然性で“ああ、もうこの聖堂ともお別れだ、3年間ありがとうございました。”という祈りしか出来ませんでした。もう午後5時過ぎ、薄暗い聖堂は、珍しく私と友人と2人きりでした。不思議はそこから起こったのです。私の感情が、どうなったリケでもないのに、急に涙が溢れてきたのです。放っておけば顔中涙となり制服に流れてくるので、友人に気づかれないように、ハンカチでソッと拭きました。その涙は聖堂を出ても止まりませんでした。だからといって、悲しいワケでなし、憂鬱なワケでなし、自分でもワケが分からないのです。涙が止まらないまま、遅くなるのでバスに乗り、JRの田町駅から電車に乗るべく、ベンチに腰を下ろして待っていました。友人と別れて1人だったにもかかわらず、暫くはベンチで涙が止まるのを待っていました。

この出来事のあと、私の心に変化が起こったのです。

つまり“卒業したら私は人の魂のために働こう”と思うようになったのです。そしてそれから、私の態度は全く変わりました。魂のために働くなら、私はミッションスクールに在籍しながら何も分かっちゃいない、居眠りで過ごしたあの宗教の時間は、何も心に人っていない と思いました。そこで卒業をま近に、手遅れだったかも知れませんが、もう一人の友人と大森教会の門を叩いたのでした。そして神父様は、何と2人だけ特別

に1週に2回も下校の帰途、公教要理を勉強させていただいたのでした。

その内、教理を覚えるより先に私の心を占領したのは、“キリストの弟子になろう”という気持でした。それを指導司祭に打ち明けたら、“ではこの春の復活祭に洗礼を授けましょう”ということでした。“ええつ、そんなに早く！！私は何も分かっていない。”でも私はその洗礼とやらを、出来るだけ早く受けて、神の子になりたい と思ったのです。

しかし、その前に大きなハードルが！！ つまり私の家は先祖代々仏教徒で、キリスト教は誰もいない、いやキリスト教など誰も考えたこともなかったでしょう。では何で娘を“聖心学院”に入れたのかな。ああ、きっとそれは学力のことだけを考えていたのだ。” などなど……

というわけで、“受洗”の話を出したら、父は寝込んでしまいました。でも私の心はひるみませんでした。“家のことも何でも、すべて忠実にしていれば、神さまはきっと応えて下さる”という信念が、不思議に盛り上がってきたのです。そして頑固な父も急に優しくなって、何も分からないのに“洗礼を受けてもいいよ。”と言ってくれたのです。ええつ、本当！！ “神さまと両親に感謝！！”

私の心は躍りました。そして自分から強いエネルギーの放射を感じ、“これからは、人のために、できるだけ働くぞ” と思ったのです。

こうして現在の私があるワケなのですが、あの当時を思い浮かべると、「あの学校帰りの涙は一体何だったのだろう。あれこそ聖霊の降り（くだり）とでも言うのではなかったか」と思うのです。

いくら科学の進んでいる現在でも“神の力に勝るものはない”という信念は、私の中にますます強くなってきているように思います。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子

「キリストの墓前で聖職者同士が流血の殴り合い」という私たちにとってはショッキングな新聞の見出しをご覧になった方も多いかと思いますが、昨年11月9日エルサレムの聖墳墓教会での出来事です。逮捕者も出る血まみれの乱闘ぶりはテレビでも放映されて、その猛烈な殴り合いを呆然として見つめたことでした。

事件の主はギリシャ正教とアルメニア正教の修道士たちとのことですが、この聖墳墓教会は、ローマカトリックも含めて6つの宗派が所有権、使用权を分有していて、これまでも対立が頻発しているそうです。聖職者も人間なのだからとは云っても、正に「ブルーナスよ お前もか」という感があります。

しかし、これは他人事ではなく我が事でもあり、ここを糸口としてさまざまに思いが渦巻き、長い時間を考えめぐねました。

国と国、宗教と宗教、社会の集団、親族家族、・・・とにかく人が集まるところに争い戦うことが途絶えることはありません。卑近なところでは、テレビの大河ドラマを見ている、また今回のアメリカ大統領選挙に因んで取り上げられることの多い南北戦争を思ってみても、およそ人が生きようとするところには争い戦うは必至のことなのです。

本などによると、人は旧石器時代から殺し合いをしていたといわれます。出土品のなかに明らかに人を殺すための武器や、殺害されたとみられる骨があるそうです。

そもそも生きることを目指す以上は欲望を抑えることは不可能と云えます。自分の欲望によって自分の所在を確保するために、私たちはその昔の類人猿の時代から今日まで、手段、方法の変遷はあるとしても延々と争い戦いを続けてきています。一方で、非暴力をもって立ち上がる賢人たちを有してはいますが、人間同士の争い戦いをなくすことはいまだ嘗てできていないのです。

先日のこと、親しい友人と気ままなお喋りをしていた時、話が64年間日本が戦争をしないことに及びました。友人と私は二人とも幼い子どもだったとはいえ、いわゆる戦争を経験した世代です。——もし今戦争という事になったら、デモ行進でも座り込みでも何でもやって、身を投げて阻止しなくては・・・——と話は熱く進んでいきました。

——でもねえ 考えてご覧よ デモやっても座り込みやっても戦争するときにはきつとする。戦争が全くなくなるなんてこと思えないよ。・・・—— 話は重苦しく滞りました。

—— ねえ我々はもう老人だよ。体力もないし全ての力が衰えている。デモとか座り込みは出来る人にやって貰って、私たち二人はそういうことより許す心っていうのか、どんなことがあっても絶対に報復しないで耐える心っていうか、とにかくひたすらもがき苦しむ悲しむことを尽くすっていうか・・・その方が分相応だと思わない？ —— 話は二人を深刻に黙らせました。

先のアメリカ9・11同時多発テロで息子を亡くした父親が、涙を流しつつ「仕返しをしてはならない」と語っているのをテレビで見ました。今その場面が蘇えます。 また、07年9月の霊性センターニュースに私は「ゆるす」というテーマで山下京子さん手記のことを書いたのですが、我が子を殺害された苦悩の果てに、ただただ哀しい涙だけとなって、その加害者と同じ人間として同じ地平に立つことを得た山下京子さんの壮絶な痛みに向きました。

争わない戦わないということは、結局は自分を死なせることではないでしょうか。自己を放棄することではないでしょうか。 戦争は人間の本能だ などよく言われますが、もし、たとえそうであっても私たちはそれぞれの身分を尽くして必ず阻止するしかないのです。 自分自身を死なせることで争い戦う事をしない人たちの存在に、私は深い叡智と希望を感じます。

息子を殺されても、仕返しはいけない と訴える父親の意志。幼い娘を無残に殺害され、しかし、その果てには憎しみや恨みではないただただ哀しいだけという涙をもって、加害者の声を自分の内に聴き容れる母親の清い苦痛。

心深く思うのですが、自分を死なせるとは、自分からの意志だけではない殆ど迎え入れられることによって成し遂げられる闘ではないでしょうか。

私も、この人たちの仲間でありたいところから願います。

神であるのに神の身分を固守せず、己を低くして、完膚なきまでの理不尽な惨めさを生きられ、十字架の死に到るまで従順であられたお方に私たちは愛されたのです。 私たちもそのお方を切に恋慕うのです。

彼には我々の見るべき威厳もなく慕うべき美しさもない・・・。

我々の不義のために砕かれ、我々に平安を与えた。

その打たれた傷によって我々はいやされた。

彼はしえたげられ、苦しめられたけれども口を開かなかった。

ほふり場にひかれ行く小羊のように口を開かなかった。

いのちの言葉 12月

わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。 (ルカ 22・42)

覚えていらっしゃるでしょうか。ゲッセマネの園でイエスが御父に言われたこの言葉は、復活へと続くイエスの受難に意味を与えるものです。この言葉には、イエスの内面に起こった苦悶が強く表われています。御父が望まれた死を前にして、イエスの人間性は深い拒絶と激しい苦悶を味わいました。

しかしキリストは、受難の日だけではなく、生涯を通じて、ご自分の思いを神のお望みに合わせてこられました。

キリストがこのように生きられたのなら、キリスト者一人ひとりも、同じ姿勢を持たねばならないでしょう。私たちも、人生の中でこの言葉を繰り返す必要があります。

わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。

私たちは洗礼を受け、教会の子供とされていても、このような生き方ができるとは考えたことがなかったかもしれません。

私たちは、先のイエスの言葉を、他には何もできない場合に出てくるあきらめの表現として、狭い意味でとらえていたかもしれません。しかしそれは、正しい解釈ではないでしょう。

どうぞ聞いてください。人生の中で、私たちには二つの選択肢が与えられています。「自分の思いを果たす」こと、または「神のお望みを自由な心で選び、果たす」ことです。

そして私たちは二つの経験をするでしょう。一つ目は、自分の限られた考えややり方、乏しい夢にすがって、自力で人生の山をよじ登るものですから、時を待たずして、私たちは落胆することになるでしょう。

人生は遅かれ早かれ、退屈でマンネリ化したものとなり、私たちは偉業成就できず、

時には絶望にまで至る、灰色の経験をするでしょう。

バラエティに富んだ人生を送りたいと思っても、生活は単調なものとなり、私たちの心の最も深い部分は、決して満たされることがないでしょう。率直に言って、私たちはこれを否定できないはずで

そして、このような人生の終わりを告げる死の後で、私たちは何も残すことができないでしょう。わずかの涙が流された後、皆から忘れ去られてしまうのです。

一方、二番目の選択肢の中では、私たちも次の言葉をくりかえします。

わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。

考えてみましょう。神様は、太陽のようです。太陽からは多くの光線が出て、一人ひとりの人間に及びますが、これが、各々に対する神様のお望みです。人生の中で、キリスト者、また善意の人は、この太陽に向かって、自分の光線の中を歩むよう招かれています。各々の光線は他と区別され、異なるものです。こうして、それぞれの人の上にある、特別で素晴らしい神様のご計画が成就されていくでしょう。

私たちもこのように生きるなら、今まで考えたこともないような聖なる冒険の中に、自分が入っていくのを感じることでしょう。神様は私たちの内で、また私たちを通して人々の中で、偉大な業を果たしてゆかれます。私たち自身、その業を目にし、その業の中で働く者となるでしょう。

私たちに起こるすべてのこと、苦しみも喜びも、幸せも不幸も、特別な出来事（成功、幸運、事故、愛する人の死）も、意味のない

ようなこと（家や職場、学校での日々の仕事など）も、すべてが新たな意味を帯びてくるでしょう。それらは、愛である神様の手から、私たちに差し出されるからです。すべてのことは、私たちの善のために、神様がお望みになるか、あるいはそうなることをお許しになって、起こるのです。私たちは、最初は信仰によってのみ、こう考えるかもしれませんが、やがて、あらゆる出来事や物事を結びながら一つのすばらしい刺繍模様を織り上げていく「金の糸」を、魂の目で見ることでしょう。それぞれ、私たちの上にある神様のご計画です。

このようなものの見方に惹かれ、あなたも、自分の人生に最も深い意味を与えたいと心から望まれるのではないのでしょうか。

もしそうであるなら、聞いてください。何よりも、「いつ」神様のみ旨を果たしたらよいか、お話ししましょう。

考えてみましょう。過去は過ぎ去り、取り戻すことはできず、神様の憐みにゆだねるしかありません。そして未来はまだ来ておらず、現実になった時に初めて生きることができません。私たちの手の中にあるのは、今の瞬間だけです。今という時の中で、私たちは次のみ言葉を実践するよう努める必要があります。

わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。

旅行をする時（人生も一つの旅です）、私たちは黙って座席に座っているものです。車両の中を行ったり来たりはしないでしょ

でも、まだ訪れない未来のことばかり夢見たり、戻ってはこない過去ばかりを考えたりする人は、電車の中を歩き回っているようなものです。

そうではなく、時間は黙っていても進んでいきます。私たちは、今の時の中にしっかりとどまることが必要で、そうすれば、この地上で人生を成就できるでしょう。

「自分の思いと、神様のお望みとを見分けるにはどうすればいいですか」とお尋ねになるかもしれません。

今の瞬間の中では、神様のお望みを見分けるのは難しいことではありません。そのため

に一つの道があります。心の中で、よく耳を澄ましてみると、かすかな一つの声が聞こえるでしょう。今まで私たちは何度もこの声を押さえつけてきたので、聞こえなかったかもしれませ

でも、よく聞いてみてください。それは神様の声¹です。この声は、「今は勉強する時」「困っている人を助ける時」「仕事をする時」「誘惑を乗り越える時」「キリスト者として、一市民として義務を果たす時」と私たちに語ってくれるでしょう。この声は、神様の代理者である人の言葉に耳を傾けるよう、また難しい状況にも勇気をもって立ち向かっていくよう、私

たちを招くでしょう。この声を黙らせず、耳を傾けてください。それは、私たちが持っている最も貴重な宝物です。この声に従ってください。そうすれば、私たちは毎瞬間、自分の歴史を築いていくことになるでしょう。それは、人間的であると同時に神聖な歴史です。神様に協力しながら、私たち自身が築く歴史だからです。次のみ言葉を実際に生きる人の内で、神様がどれほどすばらしいことを成就されるかを、私

わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。今年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1978年8月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

¹ ヨハネ 18・37、黙示録 3・20 参照



り
夕光^{かげ}の残れる庭に鶯^{ひよ}の来て椿の蜜を深く吸ひを

あざやかな絞椿の赤と白主張はげしく火花を散
らす

坤^{つち}のこゑいかに聴くらむ花のまま落ちし椿のく
れなるの耳朶

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より



カルメル会の企画案内



2009年

カルメル会四旬節講話シリーズ

共通テーマ：闇に光を

—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

場所：カトリック上野毛教会聖堂

(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会

TEL 03-3704-2171

日時：下記の各日曜日

午後二時半開始 入場無料(講話の後、主日のミサ)

- 3月1日(日) 大瀬高司(カルメル修道会司祭)
未定
- 3月8日(日) 渡辺幹夫(カルメル修道会司祭)
「厚い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る」
- 3月15日(日) 堤 巴江(カルメル在俗者会員)
「家庭と若者、生活問題の中での神との出会い」
- 3月22日(日) 中川博道(カルメル修道会司祭)
未定
- 3月29日(日) チェレスティーノ・カヴァーニャ(東京教区司)
「日本の教会の新しさ」

上野毛霊性センター '09年1月~'10年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時) 大瀬高司神父

- ① ~~'08/11月29日~30日~~
- ② '09/ 1月24日~25日
- ③ 5月16日~17日
- ④ 7月25日~26日
- ⑤ 9月 5日~ 6日
- ⑥ 11月28日~29日
- ⑦ 2010/ 1月23日~24日

2. 奉獻生活者のための黙想会

- A 8月10日(月) 夕食~ 8月19日(水) 朝 中川博道神父
- B 8月22日(土) 夕食~ 8月31日(月) 朝 松田浩一神父
- C 11月 9日(月) 夕食~11月18日(水) 朝 松田浩一神父
- D 12月26日(土) 夕食~ '10/1月4日(月) 朝 中川博道神父

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1月 8日 | 神の新しい創造 | 松田浩一神父 |
| 3月12日 | 共に苦しむ神 | 中川博道神父 |
| 5月28日 | キリスト者の日々の祈り | 松田浩一神父 |
| 7月 9日 | イエスは祈られた | 中川博道神父 |
| 9月10日 | 苦しみの中の祈り | 今泉 健神父 |
| 11月26日 | ミサの祈り | 今泉 健神父 |
| 2010/ 1月28日 | 主の祈り | 松田浩一神父 |

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

'09/ 2月13日	聖ヨゼフ	ベルナルド神父
4月17日	御復活のラウレンシオ	中川博道神父
6月19日	カルメル会の聖人達とイエスのみ心	松田浩一神父
10月 9日	アピラの聖テレジア	今泉健神父
12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

'09/2月7日~8日 中川博道神父

6. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教霊性を求めて一

(毎回金曜日 20時~ 土曜日 15時) 新しい企画

中川博道神父・松田浩一神父

- ① 4月17日(金)~18日(土)
- ② 5月 8日(金)~ 9日(土)
- ③ 6月19日(金)~20日(土)
- ④ 9月11日(金)~12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)~24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)~ 7日(土)
- ⑦ 2010/ 1月29日(金)~30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)~27日(土)

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的回復と修養を目的として、
 霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも
 気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に
 申し込んでください。

7. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日(金)~31日(日) 17時受付

11月21日(土)~23日(月) 16時受付

8. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)~ 5日(日) 15時受付

9.大祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

'09 4月9日(木)~12日(日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

'09 12月24日(木)~25日(金)《講話なし、夕食なし》

10.特別黙想会 伊従信子NDV

5月22日(金)20時~24日(日)16時(22日は夕食を済ませてご参加ください)

10月10日(土)20時~12日(月)16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

11.待降節黙想会

'09/12月4日(金)20時~6日(日)16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:カルメル会士

12.四旬節黙想会

09/3月6日(金)20時~8日(日)16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:今泉健神父

13.「カルメルの靈性に親しむ」黙想会 中川博道神父

09/3月19日(木)夕食~21日(土)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2008年～2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

9月30日 了	9月26日 了
10月21日 了	10月24日 了
11月25日 了	11月28日 了
12月16日 了	12月19日 了
2009年	2009年
1月20日	1月23日
2月17日	2月20日
3月17日	黙想会 3月19日(木)20時から 3月21日(土)17時まで

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

若者の集い

カルメルの靈性 (スピリチュアリティー) の中で
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか…

日 時 : 2008年 ~~12月13日(土)~~、12月27日(土)
2009年 1月10日(土)、1月24日(土)
午後7時 ~ 9時15分 (9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」)

対 象 : 35歳までの 青年男女

内 容 : 「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
(世田谷区上野毛2-14-25)

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。
※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>



男子跣足カルメル修道会 上野毛修道院 (松田浩一神父)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

[Fax] 03-3704-1764 [Tel] 03-3704-2171

'08年12月～'09年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院 (黙想)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

1月17日 (土) ～18日 (日)	新井延和神父
3月21日 (土) ～22日 (日)	渡辺幹夫神父
5月 9日 (土) ～10日 (日)	新井延和神父
7月 4日 (土) ～ 5日 (日)	九里彰神父
9月 5日 (土) ～ 6日 (日)	新井延和神父
11月14日 (土) ～15日 (日)	中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

'09/ 2月21日 (土)	新井延和神父
4月18日 (土)	渡辺幹夫神父
6月13日 (土)	新井延和神父
10月31日 (土)	九里彰神父
12月12日 (土)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

'09/ 1月 7日 一年の歩み	アダミニ神父
2月18日 聖ヨセフ	ベルナルド神父
3月11日 赦しの秘跡	新井延和神父
4月22日 復活	渡辺幹夫神父
5月27日 聖 霊	長岡幸一神父
6月30日 聖パウロ宣教師	九里彰神父
7月15日 カルメル山の聖母マリア	九里彰神父
9月23日 十字架の神秘	新井延和神父
10月14日 完徳の道	渡辺幹夫神父
11月 4日 聖なる冒険	Sr,パウリン
12月10日 暗 夜	中川博道神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

3月7日 (土) ～3月8日 (日)	九里彰神父
--------------------	-------

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

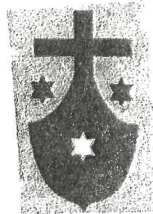
- * 日時：2009年1月24日（土）18時～25日（日）16時
- * 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- * 指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）
- * 会費：¥7000
- * 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

- 4.待降節黙想（午後5時～午後4時）
 '09/12月5日（土）～6日（日） 九里彰神父
- 5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）
 9月30日（水）～10月1日（木） 伊従信子師
- 6.一般のための黙想（午後5時～午前9時） ※修道者も参加可
 4月29日（水）～ 5月2日（土） 渡辺幹夫神父
- 7.召命黙想会（午後4時～午後5時）対象：40歳以下の青年男女
 5月5日（火）～ 5月6日（水） 渡辺幹夫神父
- 8.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）
 '08/12月27日（土）～1月5日（月） 新井延和神父
 '09/ 8月2日（日）～8月11日（火） 渡辺幹夫神父
 8月18日（火）～8月27日（木） 九里彰神父
 10月17日（土）～10月26日（月） 中川博道神父
 12月26日（土）～1月4日（月） 新井延和神父
- 9.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）
 '09/11月8日（日） 九里彰神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
 〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
 TEL 0774-32-7016
 FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み” などなど一見“ネガティブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはず。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第1回	1月31日(土)	イエス・キリストの辛い宣言	松田浩一神父 (上野毛修道院)
第2回	2月21日(土)	私は弱いときにこそ強い～弱さの中の光～	中川博道神父 (上野毛修道院)
第3回	3月28日(土)	暗夜における信仰・希望・愛 十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (宇治修道院)
第4回	4月18日(土)	喜びを生きる	新井延和神父 (宇治修道院)
第5回	5月23日(土)	聖霊に満たされて生きる	今泉健神父 (上野毛修道院)
第6回	6月20日(土)	苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエルガベット	九里彰神父 (宇治修道院)
第7回	7月11日(土)	苦しみの中の祈り	今泉健神父 (上野毛修道院)
第8回	9月21日(月) 祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父 (宇治修道院)
第9回	10月17日(土)	アヴィラの聖テレシアの靈性からの自由と希望	Sr.ベアトリス (宣教カルメル修道院)
第10回	11月28日(土)	暗夜に輝く神のみ言葉：恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) * 聖テレシア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム 10:00～ 祈り・導入・黙想

10:40～ 講話【1】

12:00～ 昼食

13:00～ 赦しの秘跡または短い面接

13:30～ 講話【2】

14:45～ ミサ

15:30～ 茶話会

16:00 終了

申し込みは、下記の住所へV字かFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685

2009年度名古屋聖書深読会

第1回 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

* 参加費 ￥1000

* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO330 (2008年秋号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (11) …高橋正行
マリアの旅 (1) —マリアと共に聴く …中川博道
十字架のヨハネ講話 (12) …フェデリコ・ルイス
今日の歌 (1) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (7) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」(2) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (2)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山真里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (22) …伊従信子
ひとつの村が消える …森みさ
愛の断章 (9) …奥村一郎

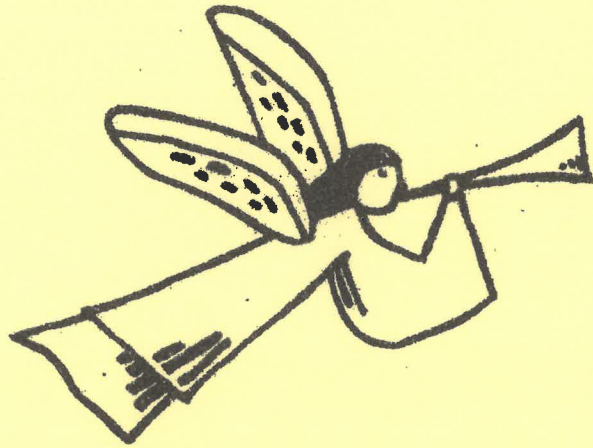
雑誌「カルメル」NO331 (2008年冬号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (12) …高橋正行
マリアの旅 (2) —マリアと共に聴く …中川博道
十字架のヨハネ講話 (13) …フェデリコ・ルイス
今日の歌 (2) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (8) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」(3) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (3)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山真里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (23) …伊従信子
現代に生きる「預言者」のころ …谷口正子
愛の断章 (10) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いておりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」

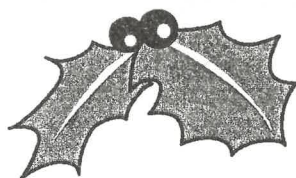
藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2009年度 ★

P1	09・01・10 (土)	2時から	01・16 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	09・01・28 (水)	2時から	02・03 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
Y1	09・02・18 (水)	2時から	02・24 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
K2	09・03・04 (水)	2時から	03・10 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	09・03・21 (土)	2時から	03・27 (金)	2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
F1	09・04・25 (土)	2時から	05・01 (金)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
I1	09・05・08 (金)	2時から	05・14 (木)	10時まで	沖縄伊江島・土の宿
M1	09・05・22 (金)	2時から	05・28 (木)	2時まで	盛岡・白百合
K3	09・06・08 (月)	2時から	06・14 (日)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
N1	09・06・24 (水)	2時から	06・30 (火)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F2	09・07・10 (金)	2時から	07・16 (木)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
Y2	09・07・22 (水)	2時から	07・28 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
O1	09・08・23 (日)	2時から	08・29 (土)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵
P3	09・09・12 (土)	2時から	09・18 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
Y3	09・10・07 (水)	2時から	10・13 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
K4	09・10・21 (水)	2時から	10・27 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
N2	09・11・02 (月)	2時から	11・08 (日)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F3	09・11・16 (月)	2時から	11・22 (日)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
P4	09・11・28 (土)	2時から	12・04 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	09・12・09 (水)	2時から	12・15 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会



2009 年度祈りの集いのご案内

聖パウロの年

通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前 10 時～午後 2 時半）



- 1月 8日 聖パウロの改心（使徒言行録9:1...）
- 2月 12日 聖パウロの宣教派遣（使徒言行録13:1...）
- 3月 12日 聖パウロの宣教における苦難（2コリント4:7...）
- 4月 23日 聖パウロのアテネにおける宣教（使徒言行録17:16...）
- 5月 14日 聖パウロのコリントにおける宣教（使徒言行録18:1...）
- 6月 11日 聖パウロの旅
- 7月 9日 キリストの使徒であるパウロ
- 9月 10日 聖パウロの書簡 1
- 10月 8日 聖パウロの書簡 2
- 11月 19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録21:27...）
- 12月 10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

2008～2009年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。

坐禅会

- 月曜日 17時20分～20時10分
 - 木曜日 18時～20時30分
- 上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心

- 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時
 - 6月20日(金)20時30分～22日(日)13時
 - 8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分
 - 10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時
- 秋川神冥窟。1泊2400円程度。
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。
● 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時
● 8月1日(金)17時30分～7日(水)13時
- 宝塚市



ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)

黙想

- 「会社拂りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。
- 水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
- 遠く霊懐 8月25日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

祈りの集い

- 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、
2009年1月10日、2月7日、3月14日
- ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

黙想会

6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(寒村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400-5600円程度。

アガベ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)

クリスマス会

12月20日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時 岐部ホール。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(火) 14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

問い合わせ・連絡先

クラウド・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 1/9 霊の動き—福音による生き方
- 1/16 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 1/23 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
- 1/30 “神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 1/31—2/1 黙想会
- 2/6 結婚と独身—愛の道



リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 1/6 「聖霊」 神の内的現存—人間における聖霊の働き
- 1/20 三位一体の神—救いの構造から神内の存在へ
- 1/31—2/1 黙想会
- 2/3 御子の受肉—神の子と人の子
- 2/17 「教会」 信仰者の共同体—教会の本質

《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年1月31日(土)

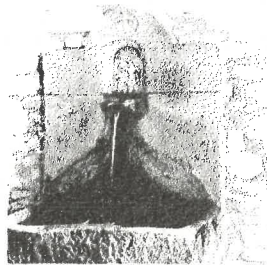
講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

* 次回の予定 2009年2月21日(土) *

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

(メールアドレスが変更になりました)

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 08年 12月 27日 (土) ~ 09年 1月 4日 (日)
- ② 09年 2月 20日 (金) ~ 2月 28日 (土)
- ③ 7月 23日 (木) ~ 7月 31日 (金)
- ④ 9月 1日 (火) ~ 9月 9日 (水)
- ⑤ 10月 17日 (土) ~ 10月 25日 (日)
- ⑥ 12月 27日 (日) ~ 10年 1月 4日 (月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ⑦ 1月 16日 (金) ~ 1月 18日 (日)
- ⑧ 2月 6日 (金) ~ 2月 8日 (日)
- ⑨ 2月 20日 (金) ~ 2月 22日 (日)
- ⑩ 4月 3日 (金) ~ 4月 5日 (日)
- ⑪ 4月 24日 (金) ~ 4月 26日 (日)
- ⑫ 5月 8日 (金) ~ 5月 10日 (日)
- ⑬ 6月 12日 (金) ~ 6月 14日 (日)
- ⑭ 6月 26日 (金) ~ 6月 28日 (日)
- ⑮ 10月 2日 (金) ~ 10月 4日 (日)
- ⑯ 10月 23日 (金) ~ 10月 25日 (日)
- ⑰ 11月 6日 (金) ~ 11月 8日 (日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

(20) 5月 19日(火)～ 5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師(カルメル会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニャック(マリノール宣教師) 安井 昌子(ノートルダム教育修道女)
菊池 陽子(ノートルダム教育修道女) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

奥村一郎

全9巻 選集

四六判・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円
オリエンス宗教研究所

深い信仰と豊かな靈性、
透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

—著者による「刊行にあたって」より



奥村一郎 ● カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋洲老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



【全9巻の主な内容】

第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信 **刊行済**
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕明
大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ

第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺 功 **刊行済**
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」

第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ **刊行済**

第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 **刊行済**

第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一 **刊行済**
嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／信仰と苦しみ／十字架の秘義

第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子 **刊行済**
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的靈性

第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説) 高橋重幸 **刊行済**
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者

第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄 **刊行済**
清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

順次刊行中 2008年6月完結予定

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。i住所が変わります！
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院
Tel (0774) 32-7456 Fax (0774) 32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

「上野毛霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

編集後記

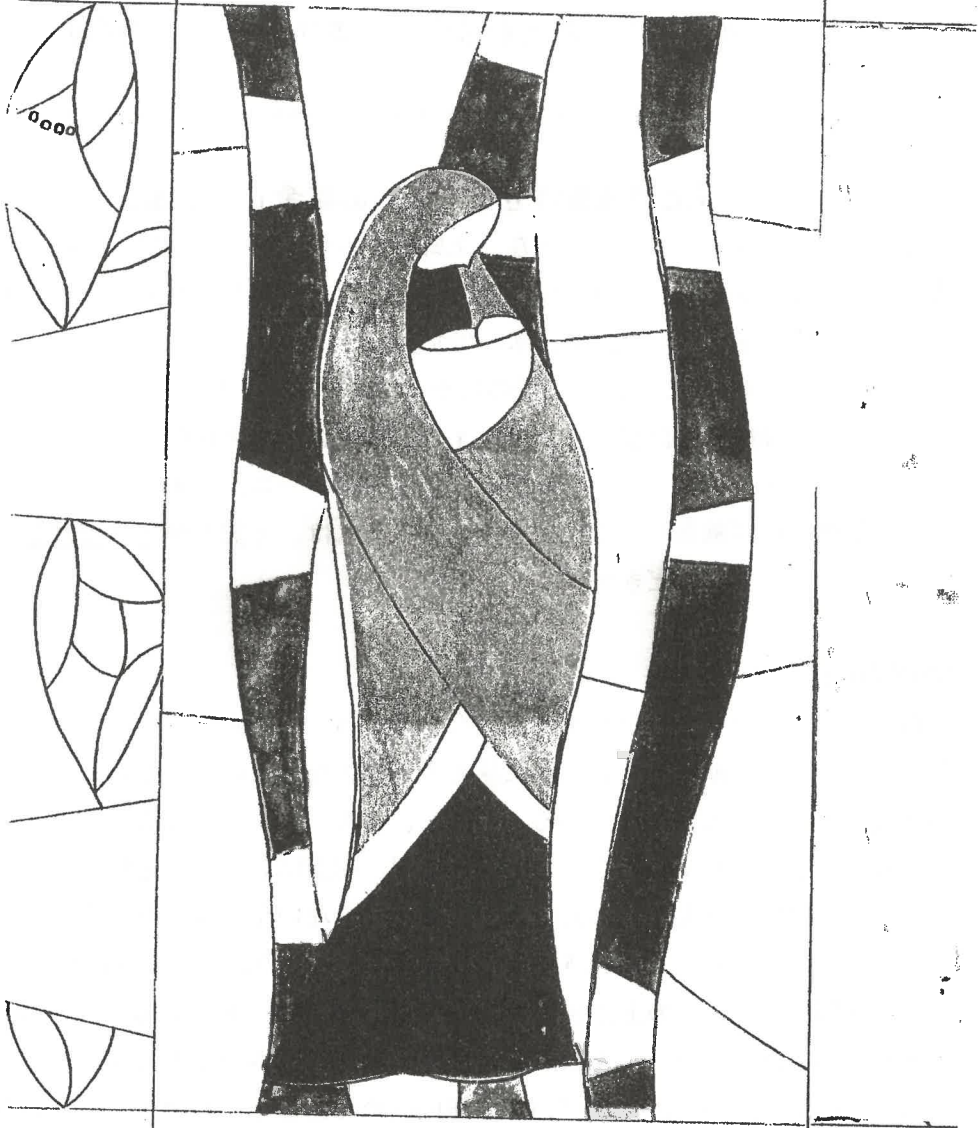
新しい年、2009年が始まった。今年はいったいどんな年になるのだろうか。おそらく、だれもが期待と不安を胸に秘めて新年を迎えたのではなかろうか。日本では忘年会や新年会が大はやりである。それも、心機一転、新たな心で一年を始めようとする人々の思いからであろう。また初日の出、初詣にしても、それらは、明確に意識されてはいないにせよ、人の力ではどうにもならない生老病死という現実の前に、人智を超えた大きな力によりすがろうとする日本人の心の表れとも取れる。

一休禪師は正月に杖の上に骸骨をぶらさげ、「門松や 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」と歌って、京都の町をねり歩いたと言う。それは、キリストの「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という言葉と重なっているようにも思われる。

その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである。気をつけて目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである（マコ 13・32f.）。

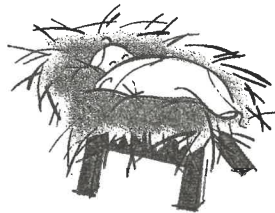
(P. 九里)

AVE Maria



Regina Decor Carmeli

Merry Christmas
& a Happy new year



今年もカルメル靈性センターニュースのために、ご援助ご協力をありがとうございました。皆様の励ましに応え、紙面の充実に、よりいっそうの努力をしてゆきたいと思っております。これからも皆様の暖かいご支援を、お願い申し上げます。新しい年が、主の豊かな恵みで満たされますよう、お祈りいたします。

祈りと感謝！



カルメル靈性センターニュース事務局

読者の多くの皆様から、昨年も献金を頂きました。感謝の気持ちで上記のカードを個々人に送らせて頂きましたが、残念なことに、匿名で献金くださった方々には住所が分からずお送りすることができませんでしたので、記名献金者にお送りした礼状(カード)を上記に掲載しました。

匿名献金者の皆様が、この記事をお目にできることを祈り、感謝の気持ちをお受けください。ありがとうございました。

スタッフ一同

